この添付文書をよく読んでから使用してください。
また，必要時に読めるように保管しておいてください。

体外診断用医薬品　　*2013年 5月改訂（第2版）
日本標準商品分類番号：87 744　　2006年 2月作成（第1版）
製造販売承認番号：20800AMZ10117000

リウマチ因子キット

RF−ラテックスX1「生研」

【全般的な注意】

1．本品は，体外診断用であり，それ以外の目的に使用しないでください。
2．診断は他の関連する検査結果や臨床症状等に基づいて総合的に判断してください。
3．添付文書以外の使用方法については，測定値の信頼性を保証致しません。
4．使用する機器の添付文書及び取扱い説明書をよく読んでから使用してください。

【形状・構造等（キットの構成）】

R−1．緩衝液
R−2．ラテックス浮遊液
　　変性ヒトグロブリン吸着ラテックス

【使用目的】

血清中のリウマチ因子（RF）の測定

【測定原理】

変性ヒトグロブリンを吸着させたラテックス粒子と試料を反応させると，試料中のRFとラテックス粒子に吸着した変性ヒトグロブリンが抗原抗体反応を起こし，ラテックス粒子が凝集します。この凝集反応は，試料中のRF濃度に応じた吸光度変化量を与えますので，既知濃度の標準を用いて作成した検量線から試料中のRF濃度を求めます[1),2)]。

*【操作上の注意】

1．測定試料の性質・採取法
(1) 検体は，血清を使用します。
(2) 血清を採取する場合は，血液が完全に凝固した後遠心分離してください。
(3) 採取後の検体は速やかに測定してください。
(4) 採血管によっては正確な値が得られない場合があります。あらかじめ影響のないことを確認の上ご使用ください。

2．妨害物質・妨害薬剤
ヘモグロビンは500 mg/dL，ビリルビンは30 mg/dL，乳びはイントラファット®注10％を添加した場合5vol％までは，測定値に影響は見られませんでした。

3．その他
本試薬はモジュラーアナリティクスに適応できます。そのほかの機器への適応については，販売元までお問い合わせください。

*【用法・用量（操作方法）】

1．試薬の調製方法
各構成試薬はそのまま使用します。
標 準 液：RF標準液 RD（別売）を用います。

2．試薬の安定性
未開封時：2〜10℃（遮光）で使用期限まで安定

3．別途必要な器具・器材・試薬
・モジュラーアナリティクス（そのほかの機器への適応については，販売元までお問い合わせください）
・RF標準液 RD
・イムノキューセラⅠ−（L）「生研」RD
・イムノキューセラⅠ−（H）「生研」RD
・モジュラー用NaCl （生理食塩液調製用）
使用方法は，各製品の添付文書及び取扱説明書をご参照ください。

4．操作方法
自動分析装置の操作法に従って，販売元指定のパラメータを用いて測定を行います。
（測定条件の例）

試 料	：	10.0μL
R−1	：	300μL
R−2	：	100μL
波 長	：	572nm

自動分析装置では，指定のパラメータに従い試料及びR-1，R-2が自動的に採取され，反応管内に順次加えられます。
反応管内で生じた反応は吸光度で測定されます。あらかじめ作成された検量線と指定の演算法により吸光度から測定値が算出されます。
販売元指定のパラメータについては問い合わせ先まで請求してください。

5．精度管理
精度管理にはイムノキューセラⅠ−（L）「生研」RD（別売）及びイムノキューセラⅠ−（H）「生研」RD（別売）をご使用ください。

*【測定結果の判定法】

1．測定結果の判定及び参考基準範囲
各検査施設で基準範囲を設定することが推奨されます。
ＪＣＣＬＳガイドラインに基づいて設定した場合，以下の基準範囲となります。
参考基準範囲[3)]　　15 IU/mL以下

2．結果の判定にかかる注意
(1) 検体によっては，まれに目的成分以外との反応や反応の妨害等により正しい結果が得られない場合があります。測定結果に疑問がある場合は，再検査や希釈試験により確認してください。
(2) 非常に濃度の高い検体の場合，試薬性能の測定範囲の上限を超えることがあります。その際は，検体を適宜生理食塩液で希釈した後，再度測定してください。

【性能】

1．性能
(1) 感度試験
①生理食塩液を試料として操作した場合，1分間当たりの吸光度変化は0.010Abs.以下でした。
②RF濃度80 IU/mLの管理用検体を試料として操作した場合，1分間当たりの吸光度変化は0.090〜0.150Abs.の範囲内でした。
(2) 正確性試験
既知濃度の管理用試料を測定するとき，既知濃度の±10％以内でした。
(3) 同時再現性試験
管理用試料を10回同時に測定するとき，その変動係数（CV）値は，8％以下でした。
(4) 測定範囲
測定範囲は，3〜120 IU/mLでした。

2．相関性試験成績
本品（y）と比較対照品（x）との間で血清を測定したところ，下記の結果が得られました。
n＝107，r＝0.996，y＝−0.749＋1.006x

【使用上又は取扱い上の注意】

1．取扱い上（危険防止）の注意
(1) 試料（検体）はＨＩＶ，ＨＢＶ，ＨＣＶ等の感染の恐れがあるものとして取扱ってください。検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋，マスクなどを着用し，また口によるピペッティングを行わないでください。
(2) 本品には，アジ化ナトリウムが含まれておりますので，誤って目や口に入ったり皮膚に付着した場合には水で十分に洗い流す等の応急処置を行い，必要があれば医師の手当て等を受けてください。

2．使用上の注意
(1) 本品は，記載された操作法に従って使用してください。記載された操作法及び使用目的以外での使用については，測定値の信頼性を保証致しかねます。

(2) 自動分析装置に使用する場合，使用の前に当該自動分析装置の取扱い説明書を熟読し，詳細は下記の問い合わせ先までお問い合わせください。また，自動分析装置は使用前に洗浄するなど，十分に調整してください。
なお，測定条件(パラメータ)の詳細については下記の問い合わせ先までお問い合わせください。
(3) 本品は，指定された条件で保管し，使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
(4) 製造番号の異なる試薬を組み合わせて使用しないでください。
また，同一製造番号の試薬であっても試薬を注ぎ足すことは行わないでください。
(5) 開封後の試薬については汚染等に注意し，十分な精度管理のもとでご使用ください。なお，管理用試料の値が精度管理範囲を超えた場合は，検量線を作成し直す等の処置を行ってください。

３．廃棄上の注意

(1) 試料(検体)，使用済みの容器及び検査に使用したすべての器具類は，次のいずれかの方法で滅菌処理を行ってください。
①最終濃度3.5vol％グルタルアルデヒド溶液に，30分間以上浸漬する。
②0.5w/v％次亜塩素酸ナトリウム溶液(有効塩素5,000ppm)に，1時間以上浸漬する。
③121℃で，20分間以上高圧蒸気滅菌をする。
(2) 本品は，アジ化ナトリウムを0.09w/v％含んでいます。アジ化ナトリウムは，鉛や銅と反応して爆発性のある重金属アジ化物を生成することがありますので，大量の水とともに廃棄してください。
(3) 試薬及び器具等を廃棄する場合には，廃棄物の処理及び清掃に関する法律，水質汚濁防止法等の規定に従って処理してください。

【貯蔵方法・有効期間】

１．貯蔵方法

遮光して2～10℃に保存

２．有効期間

1年
外箱，ラベルに表示の使用期限内にご使用ください。

【包装単位】

RF-ラテックスX1「生研」 MOD-P

R-1：緩衝液	1×54.5 mL
R-2：ラテックス浮遊液	1×20 mL

*【主要文献】

1) Galvin JP,et al.:Particle enhanced photometric immunoassay systems,Clin.Lab.Assays(Pap.Annu.Clin.Lab.Assays Conf.),4th,73(1983).
2) Singer JM,et al.:The latex fixation test.I.Application to the serologic diagnosis of rheumatoid arthritis,Amer.J.Med.,21,888(1956).
3) 熊谷俊一ら：自己抗体検査の全国サーベイとそれに基づく標準化の検討，臨床病理，57(1),31(2009).

【問い合わせ先】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
カスタマーサポートセンター
〒105-0014　東京都港区芝2-6-1
フリーダイヤル：0120-600-152

*【製造販売業者の氏名又は名称及び住所】

デンカ生研株式会社
〒959-1695 新潟県五泉市南本町一丁目２番２号
TEL：0250-43-4111(代表)　　FAX：0250-43-3789

製造販売元

デンカ生研株式会社
新潟県五泉市南本町一丁目２番２号

販売元

Roche　ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
東京都港区芝２－６－１